

ゆたか倶楽部 ものがたり

自社ビルの完成……④

「クルーズのゆたか倶楽部」は1984年に創業。日本クルーズ業界の黎明期から現在までを同社創設者・クルーズマスターの松浦睦夫氏が同社の歴史とともに語る。

1997年に完成した自社ビルは、柳原良平画伯に依頼して、1階カウンスターの壁面に「つぼ丸」の「ふじ丸」「新さくら丸」「飛鳥」のおりえんとびいなすの5隻を描いていただきました（その後「ばしふいっくびいなす」「飛鳥II」の就航時に加筆もしてくださいました）。2階には日本船デスク、3階はダンスやヨガなど教室とクルーズ旅行説明会の会場、4階は外国船デスク、5階をパンフレットなどの保管倉庫としました。

クルーズ一本で会社を運営していくことを決心し、スーツケースのレンタルとシルバークラス（老眼鏡）の販売を辞めることに。妻の母親から借りて8年間事務所兼倉庫として利用した埼玉県朝霞市の事務所を、約束どおりアパートに改修して返却しました。

ビルの竣工を祝し、「ふじ丸」をチャーターしてワンナイトクルーズを実施。お世話になっていた日本船3社の社長にご出席いただき、一緒に鏡割りをしました。会社案内に自社ビルの外観写真を載せるようにしたこと、旅行の申し込みを検討するお客様からの「お宅の会社は大丈夫か」という電話はほとんどなくなりました。

老人クラブ会員を主体とするクルーズ「ふれあいの船」は1991年の初実施から恒例となりました。1996年は3月と4月の2回実施、コースはいずれも「青島・大連・旅順」です。3月は220名様、4月は350名様にご参加いただきました。当時は参加者の氏名、住所、顔写真の名簿や船内新聞、オフィサー陣のあいさつなどを載せた冊子を作り旅行後参加者全員にお送りしていました。個人情報の扱いが厳しくなり

翌年が最後となりました。船内ではカルチャー教室に力を入れ、終日航海日は4会場で各午前2回午後2回計4コマの講座があるので、積極的に参加する方は目の回るような忙しさです。最終日はかくし芸大会。全員参加でキャプテンが審査委員長をしてくださり、たいへんな盛り上がりでした。クルーズ中の燃料や食材の使用量も発表しました。A重油60キログラム、C重油310キログラム、清水1300トン、肉500キログラム、卵30ケース、野菜1800キログラム、米1200キログラム、魚800キログラム……など。乗客の男女最高齢の方の発表と記念品の贈呈も行いました。

同年11月には当時史上最大の客船「カーニバル・デスティニー」(10万1353トン)が就航。処女航海への日本からの送客は弊社が一番多く120名様に参加。私も添乗しました。客船として史上初めて10万トンを超えるためパナマ運河を通航できず、通年でカリブ海に就航する最初の船でした。

この頃、飛鳥の世界一周クルーズに感化され、商船三井客船のファンの方々からの「なぜにつぼ丸は世界一周を実施しないのか」という声が大きくなり、電話や書

面で弊社に寄せられ、来社される方までいらっしゃるほどでした。当時につぼ丸への送客数は弊社が業界で一番多かったため、船会社だけでなく弊社に頼めばなんとかなると思われたのでしょうか。商船三井客船の営業担当者に度々話を持ちかけたのですがちがも聞きません。そこで熟慮のうえ、弊社の会員様(当時約2000名)全員に独自に作成したアンケートを送付、お客様の声を聞くことにしました。アンケートの内容は「つぼ丸世界一周の私なりの素案(日程、コース、金額など)を提示した上で、①参加する②コース・料金がはつきりしてから考える③参加しない、の3択でご回答いただきました。結果は①が138名様、

②が38名様、③が390名様でした。これを持って商船三井客船に話をしました。ぜひ実現したいという気持ちが強く、世界一周が実施されるなら50室(100名様分)を買取ると大見得を切りました。1回のクルーズとしては過去最大の契約です。しばらくして世界一周を実施することになったと連絡がありました。1998年の初実施の際にはなんと弊社から100名様にご参加いただきました。

ばしふいっくびいなす就航

1998年、「ばしふいっくびいなす」(2万6594トン)が就航しました。4月のデビュークルーズは「海のシルクロードへ」と題した海南島(中国)、ベトナム、シ

ンガポール、スリランカ、インド、マレーシア、インドネシア、ブルネイ、香港をめぐる40日間のクルーズでした。2000年にはスタークルーズの「スターマスター・トラス」が神戸港発着の韓国クルーズを始めました。この年、神戸港の第四突堤に約10坪の小さな事務所を設け、西日本での営業を本格的に始めました。その後2002年には神戸に代わり大阪駅前第4ビルに大阪営業所を開設し、現在に至っています。

2002年のゴールデンウィークには、ロシア・アゾフ海に面したロストフ・ナ・ドヌからモスクワまでドン川を行くリバー船を14日間チャーターするという、日本の旅行会社初の試みを実施。リバー

クルーズに本格的に参入しました。ソビエト連邦崩壊から約10年という当時はインフラも遅れており、6台の観光バスは車種もバラバラでサービスもなっていない。しかし気候は素晴らしく、ロストフではリンドの花が咲き、リパークルーズですからまったく揺れません。同年秋にはモスクワからサンクトペテルブルクまでボルガ川のリバー船を10日間チャーターしました。ボルガ川クルーズのハイライトは、キジ鳥の世界遺産、プレオラジェンスカヤ教会という釘を一本も使わない木造建築の教会です。日の当たり具合によって銀色や金色に輝いて見えました。

今回は2013年に引退した「ふじ丸」の話です。 (つづく)



柳原良平氏による、自社ビルの壁画



1997年に完成した自社ビル



につぼ丸初の世界一周クルーズのパンフレット



松浦睦夫(まつうら・むつお)
長野市松代町出身。1967年大学卒業後旅行会社に入社。1984年「ゆたか倶楽部」創業。海外渡航歴171回、クルーズ業界の第一線に45年間立ち続け、2003年には日本外航客船協会が選定した初代「クルーズ・マスター」の一人に。2015年3月、31年務めた代表取締役を退任。現在は同社オーナー兼取締役。

YUTAKACLUB CRUISES
http://www.yutakclub.co.jp
東京本社:TEL 03-5294-6261
大阪クルーズサロン:TEL 06-6455-0931
横浜クルーズサロン:TEL 045-227-8211